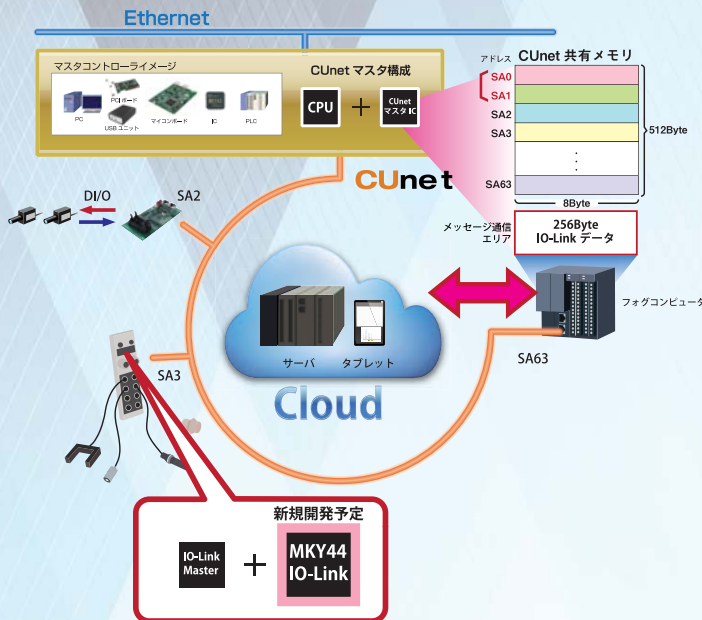


CUnet + IO-Link

IO-Link 対応新製品 (開発予定)

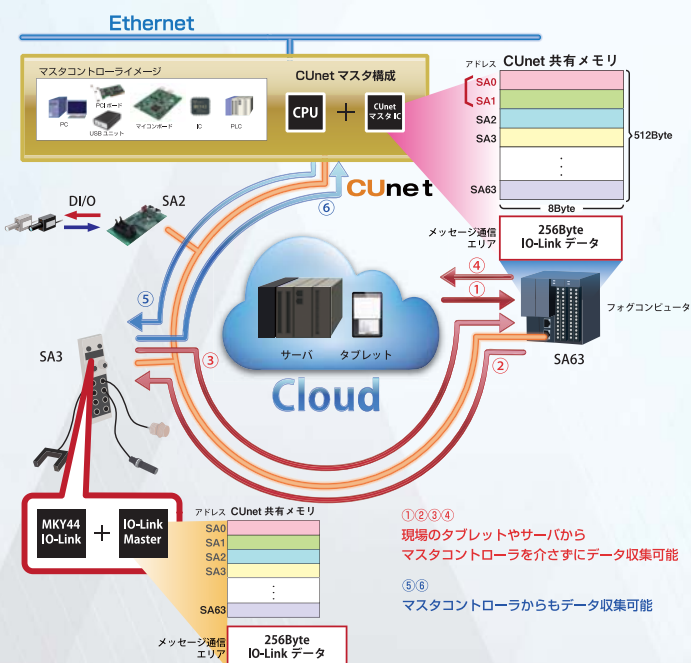


ステップテクニカは、CUnet にて簡単に IO-Link をネットワーク化できる製品開発を予定しております。

IO-Link をネットワーク化する際に、産業用 Ethernet を検討されることが多いと思いますが、IP67 コネクタの使用や、スレーブ機器コストの増大、マスタコントローラの負荷、予知保全データを取得する際のモード切り替え時の制御など様々な課題が山積することが予想されます。

ステップテクニカでは、IO-Link 対応の CUnetIC を新規開発することにより、上記のような課題を RS485 ベースのフィールドバス (CUnet) でも簡単に解決できると考えております。予知保全データの取得の際も CUnet のメッセージ通信 (メール機能) を使用する事により、ネットワーク負荷が増えることも、マスタコントローラの負荷が増えることもありません。また、マスタコントローラやフォグコンピュータ、両方からデータ取得する事が可能です。

CUnet による IO-Link ネットワーク化の概要 (開発予定)



CUnet 上にフォグコンピュータ (パートナーメカにて開発予定) を設置するだけで簡単にサーバやタブレットへ IO-Link の予知保全などのデータを上げることが可能になります。

CUnet のメッセージ通信 (メール機能) を使用すれば、マスタコントローラ負荷や、ネットワーク負荷が増えることは、一切無く構築可能です。

通常は、CUnet 共有メモリにて IO-Link の StandardIO モードを高速制御できます。予知保全データが必要な際にサーバやタブレットから OPC UA などの規格に従い、CUnet 対応フォグコンピュータへアクセスすれば、後は自動的にフォグコンピュータがデータ収集を行います。また、フォグコンピュータを使用せずにマスタコントローラからデータ収集することも可能です。

これにより IO-Link COM モードのプロセスデータ (PD) や サービスデータ (SD) を収集することが可能となり、産業用 Ethernet を使用せずとも簡単に IoT 化や IO-Link をネットワーク化することができます。